

調査(ヒアリング)の結果 － 府議会広報の現状と新たな広報の仕掛けについて －

◆日 時：令和3年10月1日(金)午前10時30分～11時20分

◆場 所：議会棟 第1委員会室

◆出席者：株式会社天空PR 代表取締役 並川 洋介氏
広報広聴会議委員 5名

◆開催概要：行政等の広報番組の制作に携わる参考人から、府議会の広報番組の現状についての分析をはじめ、最近の映像制作の動向など、伝わる広報の仕掛けについて話を伺い、意見交換

◆説明内容(並川参考人)

- ・ 通常の広報番組はスポンサーからの広告収入により番組が成り立つので、視聴率は大きな判断基準となる。4時間の議会生中継は「見られているのか、いないのか？」おそらく、4時間見られている方はかなり少ないだろう
- ・ しかしながら、論点は議会を「誰もが見られる環境」を提供しているかどうかである。議会での議論が広く見られる環境にあるかどうか、「見ている、見ていない」ではなく、議会の姿勢として見られる環境を確保しているかどうか大切な視点
- ・ インターネット中継があるからそれで十分ではないかという議論もあるが、最近の新聞記事においても、70歳以上の6割近くがスマホやタブレットを使用していないという記事もあり、すべての方が見られる環境にあるわけではない
- ・ 反対に若い世代に議会を見てもらおうと思えば、インターネットを使用することは有効だろう
- ・ 4時間の生中継を1時間のダイジェスト番組にした場合、メリットは予算が減りその部分を取材に費やすことができること。また1時間にすることによって、他府県の場合のように、全体像が把握しやすい
- ・ デメリットとしては、当日の夜の放送となるとKBS京都の責任編集となり、編集次第で伝えたい意図が変わることもある。責任編集でお任せしてしまうと伝えたい内容が伝わらないこともあるだろう。その危険性を回避するためには後日、チェックをして放送すればそれは改善される
- ・ テレビ広報番組「府議会 cafe 京都」は、議員と司会者の一問一答形式になっていて、しっかり伝えたいことを伝えている番組だと印象を受けた。広島県議会のダイジェスト番組が見やすいのは、そこに府民目線のコメンテーターがいて、視聴者が聞いて欲しい内容を伝えられる作りになっているからではないか。議員、司会者、コメンテーターの3者がいることで見やすい。議会の内容をもっと伝えられるような手法を業者に提案させてもいいかもしれない。伝え方はいろいろある

- ・ 府の広報課では、KBS京都のツール以外にテレビを見ない世代（若者）に対する広報が弱かった。その中で若者向けへの YouTube 番組「知ったかモグラ」を昨年開始したところ、チャンネル登録者が昨年1年で 2,500 人増加。そのうち 45% が 20～30 代である
- ・ 「府議会 cafe 京都」を5分版にして YouTube で配信する場合、エリアは京都府内で 18 歳から 40 代までといったセグメントを決めて若い世代において配信することが可能では

◆主な意見交換内容

- ・ 代表質問の生中継は、支援者の方に広報すると自分の時間は見てくれる。そういった面で生中継は重要だと思っている。SNSを使った事前広報をして、視聴率をあげていくことはとても大事である。特に生中継は70代、80代の方には重要なメディアだと感じた。府の公式 YouTube「知ったかモグラ」的に少しくだけて広報することによって課題だと思われる 20 代、30 代の視聴を伸ばすことは大事
- ・ 生中継はそのまま放映を続けて欲しい。自身では、テレビをオンタイムでみない。録画や YouTube はいつでもどこでも見られる。テレビでも YouTube でも生中継を流すと、それぞれのニーズに合うのではないか
- ・ 京都は「学生のまち」というが、一人暮らしの学生はテレビも固定電話もない学生が多い。広報の予算でもテレビとテレビ以外（YouTube など）が同じくらいの予算になるのが理想では。若い世代には主権者教育に力をいれているが、それでも手薄になっている。そのところが論点になるだろう。生中継を楽しみにしている人もいるが、反対に若い人にとっては不要だろう
- ・ 冒頭の「議会を見られる環境を提供しているのか」これが大事な話である。生中継は高齢者の皆さんが見られることが多く、支持者中心になっているだろう。確かに4時間は長いが。見られる環境を確保することが大事。両論（テレビと YouTube）がいいと思うが
- ・ 生中継が見られていないからダイジェストにしてはどうかという話があったが、逆に「府議会 cafe 京都」のほうが見られていないのではないかという思いもある。「府議会 cafe 京都」を YouTube にしてはどうか
- ・ 府議会は市議会や国会に比べて注目されないところがある。露出が少ないように思う。見ていただく、知っていただくことに重きを置いては。生中継は大事。本来では議会にも来てもらう必要があるが、遠くからはなかなか来てもらえない。議会の雰囲気味わってもらうには生中継が必要。また、新しい広報として YouTube を取り入れてはどうか

令和3年7月5日

議会改革に関する諮問書

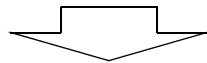
- 京都府議会は、これまでから開かれた議会や政策提案機能・監視機能の充実など様々な議会改革の取組を実施してきたところである。
- 今期前半の2年間においては、地域の課題や要望を府政に反映するための議員力の向上や、執行機関に対する政策提言を行うための議会・委員会運営のあり方の検討を行い、議会としての力を高めてきたところであるが、これらの取組や成果を議会の機能のさらなる強化に着実につなげていくことが求められる。
- 昨年来の新型コロナウイルス感染症の拡大や近年頻発する大規模災害、またデジタル技術やICT化の進展などの社会の動きに対応するため、議会が果たす役割はますます重要になっているとともに、こうした議会が果たす役割を府民に的確に伝え、府議会に対する理解を深めていく取組も欠かせない。
- さらには、府民の信託を受けた議員として、識見を持った活動を行うとともに、不断の研鑽に努めなければならない。

以上の点から、議会改革の課題として、次の検討をお願いしたい。

- 1 感染症のまん延等の緊急事態や大規模災害の発生時において、府議会が二元代表制の一翼を担う府の意思決定機関としての機能を効果的に発揮できる仕組みづくりの検討
- 2 議員力の向上を図り、審議の充実や効果的な政策提案を行うため、デジタル技術やICTの活用促進を含めた、機動的かつ能動的な議会運営の検討
- 3 府の意思決定機関としての府議会の活動を府民にわかりやすく発信し、府議会への理解を一層高めるため、現状の広報番組等の検証や新たなメディアの活用など、効果的な広報広聴の実施の検討
- 4 府民への説明責任を果たすため、政務活動費の用途の一層の透明化・適正化に向けた政務活動費制度のあり方の検討

諮問事項についての協議の場

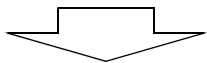
- 1 感染症のまん延等の緊急事態や大規模災害の発生時において、府議会が二元代表制の一翼を担う府の意思決定機関としての機能を効果的に発揮できる仕組みづくりの検討
- 2 議員力の向上を図り、審議の充実や効果的な政策提案を行うため、デジタル技術やICTの活用促進を含めた、機動的かつ能動的な議会運営の検討



議会運営委員会議会改革検討小委員会（12名）において協議

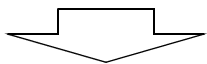
※「京都府議会ICT利活用推進・実施計画」の進行に関することについては、小委員会に置く作業部会（5名）において検討を実施

- 3 府の意思決定機関としての府議会の活動を府民にわかりやすく発信し、府議会への理解を一層高めるため、現状の広報番組等の検証や新たなメディアの活用など、効果的な広報広聴の実施の検討



広報広聴会議において協議

- 4 府民への説明責任を果たすため、政務活動費の用途の一層の透明化・適正化に向けた政務活動費制度のあり方の検討



理事調整会議において協議